

(図中のせりふ)

不破伴左衛門重勝

市川團十郎

鳶の者ほり物連次

尾上菊五郎

名古屋山三元春

助高屋高助

〔 遠からんものは音おと 通と せりふ 〕

〔 に もきけ近くば寄よ せりふ 〕

〔 て 目め にも 〕

三升ますのもの

すきは今いまりうかうの

〔 く 〕 わんくわつでたち通かよ

ひくるわの大門おほもんを這入はいれ

〔 ば 〕 たちまち極楽浄土ごくらくじやうど

〔 こ 〕 くうに花はなのまへわたり

〔 〕 歌舞かぶのぼさつの君達きぢたち

〔 が 〕 たへなる御声みこえおんがくは

まことに天女てんにょあまぐたり花はなふり

かゝる仲の町色いろにいろあるその

なかへいなづま組かごろつきの

これをしらすやいなづまの初はつり

見たり不破ふわの関せきせきにせかれて

めせき笠がさふられて帰けるか雨あめに鳥とり

ぬるゝ心こころのからかさになぐらかせしよ

ぬれつばめぬれにぞぬれしかのきみと

くらべぼたんのふうぞくは

した谷やつゝ野ののやまかつら

にしにふじが根ね

きたにつくば

おもひくらべん

だてこそで まて

かたなのこじりをとらへし

おかたなんとめさる

これやこなたへこめんなさ

りやう身みはこのみとへかよひ

つめ当たう世せだゝら大だいじんと人に

しられてやみの夜よもよし原はら

「ば」かり月夜かなことに

夜ぞくらまばゆくも咲

そろふたる仲の町此大還を

よけずして何で身ども此鞘へ

武士のさやあて挨拶さつせへ

ハハハそりや此方より申すること大道

「ひ」ろ きくるわ内わが物がほの六法はよしや男の

丹前姿もやうも雲に稲づまもしや此頃うはさめる

いまよし原でかくれのねへいなづま組の関大尽その

名も高きぶじつくば心たがへばやみくもにぬけば

たま 玉ちるつるぎのいなづま

其もやうとはことかはりあめのふる夜も風の夜も通ひくるわの上林夜の

ちぎりもたえすしてあくるわひしき葛城としつほりぬるゝ濡之身むほむたいの行違

ひよけて通すも恋の道

そこを素直に通さぬがいなづま組の達衆のいぢつく

稲づま組のずる市川関大尽とはおいやねど真事は

不破の伴左衛門かくすとすれどものごしかつこう

其声音こそおぼえあるむかし

男おとこの光ひかる君きみしかし刃はがねはなま

くれた名な古屋山三なごと見み抜ぬけて置おいたは

人目ひとめをつゝむめせきがさ取とつて

きでんの御ごめんぎう

こなたの面おもも覚おぼえるため先まづ

その笠かさを 貴公きこうの笠かさも

イザ イザ イザ

ヤゝ思おもふにたがはぬ名な古ふるや元もと春はる

切きこそ不ふ破はの伴ばん左さ衛ゑ門もん

たへて久ひさしき面めん会かいも

場ば所しょも多おほいにあづまなる

花はなの中なかなる花はなのころ

をり吉原よの夜よざくらに

よしや男をとこのなこや氏うぢ

今いまの其その名なは関せき大だい尽じん

折おりよく爰こゝで あいました 中略

まア 待まつたまちなせへ ヤアいら

ざるとめだて のいた イゝヤのか

(以下裁断のため不明)